

## K-02 【Green Device サミット①】

10月29日(木)13:00-16:50



① 13:00-14:00

グリーン・グリッドー米ニューメキシコから日本へのメッセージ

米 Los Alamos National Laboratory Science Advisor to New Mexico Governor  
Richardson Thomas Bowles 氏

グリーン・グリッドは、クリーンで再生可能なエネルギーをスマート・グリッド技術と結合することによって、消費者のエネルギー・ニーズにこたえようとしている。米ニューメキシコ州と日本は、研究者、設備、企業、政府機関がパートナーシップを結んで、安全で、信頼性の高い、効率的なグリーン・グリッドの基礎を開発するために取り組んでいる。ここでは、グリーン・グリッドを形成する際に生じる技術、ポリシー、ビジネス、そして消費者の問題に対して、われわれが進めている戦略と計画について語る。



② 14:10-14:50

スマートグリッドにおける日本政府の取り組み

経済産業省 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部 政策課長 増山 壽一氏

地球環境保護、持続的な経済成長の確保、そしてエネルギー・セキュリティの同時達成は日本のみならず世界の課題である。そのカギは、低炭素革命を目指した省エネ・新エネ政策の政策総動員にある。単なる政策の羅列でなく、政策の集中や日本的な組み合わせなど、総動員が重要である。政策の現場から、世界的な視野のもとで足腰がしっかりした議論を行いたい。



③ 14:50-15:30

日本が先導する「エネルギーの情報化プロジェクト」ーエネルギーの流れや変化の可視化と知的制御ー

京都大学大学院 情報学研究科 教授 松山 隆司氏

「エネルギーの情報化」は、電力網の高機能化を目指して欧米で活発な研究開発活動が始められている Smart Grid とは異なり生活環境における多様なエネルギー(電気、熱、風など)の流れや変化を可視化するとともに、EoD(Energy on Demand)プロトコルに基づいたエネルギーの蓄積・制御や異なったエネルギー間の相互変換機能を駆使して従来の個別的省エネデバイス・技術では実現が難しかった超省エネ生活環境、コミュニティの実現を目指すものです。本講演では、エネルギーの情報化のアイデア、技術開発プロジェクトの成果・現状、今後の展開を紹介する。

# FPD International 2009 Green Device 2009



④ 15:30-16:10

## エネルギー危機が創出する半導体技術の次代の波

米 National Semiconductor Corp. Chairman of the Board and Chief Executive Officer  
Brian L. Halla 氏

“グリーンな世界”と“クリーンな環境”を実現するためのエネルギー効率向上への取り組みと、再生可能エネルギー技術の開発は、半導体産業の次代の成長を牽引する。ムーアの法則の進展により、デジタル・コアの集積度が飛躍的に上昇し、消費電力低減やバッテリー寿命延長のための技術開発が進む中で、エネルギー効率向上が至上課題となっている。半導体メーカーは再生可能エネルギーの効率と成長性を高めるため、エネルギー消費低減に向けた技術革新を推進している。こうした技術革新は“地球によりやさしい”成長の波を半導体産業にもたらし、歴史を形成してきたコンピューター、インターネット、携帯電話を凌駕(りょうが)する影響を社会に与える。



⑤ 16:10-16:50

## クリーンで明るい未来に向けて

米 Applied Materials, Inc.

Chairman of the Board of Directors, President and Chief Executive Officer Michael R. Splinter 氏

“グリーンな世界”と“クリーンな環境”を実現するためのエネルギー効率向上への取り組みと、再生可能エネルギー技術の開発は、半導体産業の次の代の成長を牽引する。Moore の法則の進展によってデジタル・コアの集積度が飛躍的に上昇し、消費電力低減やバッテリー寿命延長のための技術開発が進む中で、エネルギー効率の向上が至上課題となっている。半導体メーカーは、再生可能エネルギーの効率と成長性を高めるため、エネルギー消費低減に向けた技術革新を推進している。こうした技術革新は“地球によりやさしい”成長の波を半導体産業にもたらし、歴史を形成してきたコンピューター、インターネット、携帯電話を凌駕する影響を社会に与える。

2009年10月8日現在